

【第1号議案資料】

社会福祉法人つくしの会 障害者支援（自閉症者療育）施設 はぎの郷

令和2年度事業報告

1. 利用者の推移

(1)入・退所者推移

	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	R1.4.1	R2.4.1	R3.4.1
男	27	27	28	28	29	29	29	28	28
女	15	15	15	15	15	15	15	15	15
対前年度増減	0	+1	0	+1	0	0	0	-1	0
合計	42	42	43	43	44	44	44	43	43

(2)性別・年齢別表(R2.3.31現在)

	26	33	34	37	38	43	44	45	46	47	48	49	50	51	54	57	合計	平均
男	1	1	0	1	1	0	1	3	3	1	4	5	3	2	1	1	28	46.3
女	0	0	1	0	0	1	0	1	2	2	4	0	4	0	0	0	15	47.6
計	1	1	1	1	1	1	1	4	5	3	8	5	7	2	1	1	43	46.4

(3)市町村別利用状況(R2.3.31現在)

	金沢市	野々市市	内灘町	津幡町	七尾市	白山市	小松市	かほく市	合計
男	22	1	1	0	1	0	0	2	28
女	5	1	1	2	3	2	1	0	15
計	27	2	2	2	4	2	1	2	43

(4)障害支援区分別表

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	3	14	11
女	0	0	0	3	6	6
計	0	0	0	6	20	17

※平均支援区分：5.26

※強度行動障害認定者：20名

2. 職員構成

R 3.5.1 現在

	定数	現員数	定数比		定数	現員数	定数比
施設長	1	1	0	事務長	1	1	0
サービス管理	1	1	0	事務員	1	1	0
支援課長	20	1		管理栄養士	1	1	0
生活支援員		25.3	+5.3				
看護師	1	1	0				
				合計	26	32.3	+6.2

3. 実施した主な行事

月	行 事	主 催	場 所
4月	新緑喫茶	はぎの郷	正面玄関
7月	夏祭り（水遊び）	はぎの郷	駐車場
7月	シェイクアウト石川に参加	石川県	各生活棟
8月	花火大会	はぎの郷	駐車場
8月	たこ焼き	はぎの郷・ノーム	
9月	お彼岸おはぎづくり	はぎの郷	各生活棟
10月	マジシャンルパンによるマジックショー	はぎの郷	正面玄関で観覧
11月	ハロインパーティー	はぎの郷	各生活棟
12月	クリスマス忘年会	はぎの郷	各生活棟
2月	節分・バレンタイン	はぎの郷	各生活棟
3月	ホワイトデー	はぎの郷	各生活棟

4. 職員研修及び関連研修

日 付	分類	内 容	備考
R 2/9/28 (月) R 2/10/14 (水)	研修	生涯研修課程：初任者研修	
R 2/12/12-14	研修 オンライン	自閉症カンファレンス 2020	
R 2/12/15 (火)	研修	いしかわ福祉施設相互応援ネットワーク 応援職員のための感染防止研修プログラム	
R 3/1/18(月)～ 19(火)	研修	強度行動障害支援者養成研修：基礎	
R 3/1～	研修 オンライン	「障害のある人の健康診断」 国立のぞみの園	
R 3/2/4(木) R 3/2/25(木)	研修 オンライン	サービス管理責任者養成研修	

5. 受諾研修・ボランティア・見学等

(ア) 受諾研修及び実習

※コロナ感染予防対策のため、今年度は受諾研修及び実習は中止している。

(イ) ボランティア ※来郷時、検温・消毒を徹底し受け入れる

内容	備考
織物作業指導	毎月1回
PCクラブ・インターネットカフェ	主に第1・3水曜日

(エ) 見学

随時、マイナビ見学希望・相談等に対しては、ウェブ等を利用して取り入れてきた。

6. 支援について

1) 新型コロナウイルス感染症発生のため、生活スタイルの変更を余儀なくされた。人と人との関わり方が変わり、ソーシャルディスタンスを保ちながら一年中マスクをして生活をしなければならなくなった。

それに対し施設としても、新型コロナウイルス感染症の予防を最重要課題として「職員が持ち込まない」ということを原則として、感染症対策委員会を発足し感染予防に向けた取り組みを徹底し、全体での活動から小ユニットでの生活・日中活動へと切り替えて、その中での利用者お一人おひとりに応じた支援のあり方を考えながら職員全体で取り組んできた。

本館男性棟（男性利用者19名）、本館女性棟（女性利用者15名）と別館（男性利用者9名）がそれぞれ独自に生活を組み立てている。アセスメント・モニタリングを元に話し合い小グループ活動から段階的に各利用者の「個別」に焦点を合わせ一人一人の支援の在り方を模索しながら日中活動を提供してきた。また外部講師を招き、ヨガ・ダンス教室では楽しみにしている利用者も多くリラックスできる活動となり、美術教室では自由な表現活動の場となっている。

利用者の高齢化に伴う支援の形は徐々に具体的になってきているが、限りある空間や段差、あるいは職員の配置等には、まだまだ検討の余地がある。

2) 職員の支援体制

「はぎの郷」は栄養、保健と密接に連携を取りながら日々の施設入所支援と生活介護（日中活動と生活支援）の2種類のサービスを提供している。

職員の勤務体制は、夜勤3人体制と早出2人、遅出1人、遅番2人と複雑なローテーション勤務を行っており、職員間の情報共有や連携が重要となっている。

利用者の健康管理は日々の支援の中においても、ますますウェイトを占めるようになってきており、日頃より口腔内の健康（歯周病や歯が脆くなり欠けるなど）や感染症には速やかに対策を講じている。サビ管・生活支援員・看護師・管理栄養士等が連携を取り、24時間体制で利用者一人ひとりに応じた支援を行っている。

しかし、不調や疼痛を訴えることが出来ない利用者が殆どなので、日常的にバイタル状況、睡眠状況、食事の摂り方、言動面等から異常に気付き、速やかに医療機関につないでいくことが、この先ますます重要になってくると考えている。

3) 栄養

①委託業者との連携を密にとる。

②6ヵ月に一度のモニタリング会議に参加し、栄養ケアマネジメントを行った。

③利用者の健康状態・ADL状態・障害特性により特別食が増えてきた。

・栄養量 ・調理法 ・食事の形態（きざみ食、別盛り食） ・介助皿の使用

4) 医務

①健康診断、健康管理と疾病予防

- ◆ 健康診断 (年2回／ 3月中止 9月実施)
- ◆ 歯科検診 (年1回)
- ◆ 定期的な歯科通院
- ◆ インフルエンザワクチン接種 (10月28日)

②【医療連携病院】

医療法人社団浅ノ川 桜ヶ丘病院

【入院時の個別付添い対応】

利用者の入院加療中に、ご家族の付き添いが困難な場合、ご家族から要請があれば可能な限り、付き添いができる様に配慮しているが、これも職員の勤務上難しくなっている。(個別付添費を別途いただく)

7. 活動報告

1) QOL 向上担当部門

基本方針

ご家族と連携し、季節を感じながら健康で、心身ともに豊かな生活を提供する

重点目標：「新しい生活様式」を取り入れて安全・安心を保てるよう生活環境を見直し、一人ひとりの生活の基本部分に目を向けてQOLの向上をめざす

①日々の生活習慣の徹底

- ・手洗い消毒を徹底し、特に食事前・トイレ後・外出から戻った時に手洗いが抜けないようにした。
- ・職員のワンケアワン手洗いを徹底し、手指消毒液も常に携帯する。
- ・利用者の生活習慣や行動を見直し、見通しを持って生活できるように予定表の作成と日課の掲示。
- ・館内の備品の管理は、すぐにわかるよう整理・在庫把握し、5Sを徹底した。

②健康管理 [生活支援員・看護師・栄養と情報共有し連携]

- ・毎日の健康把握 (1日2回の検温・バイタル確認)
- ・健康状態の把握 (月1回のほけんの日：体重・腹囲・血圧、脈拍、体温などを測定、記録する)
- ・歯磨き—今必要なのは利用者が自分の歯を磨く技術向上ではなく、職員が利用者の歯を磨く介助技術の向上。
- ・利用者の高齢化に伴う、介護の知識や技術の習得。

③余暇支援

感染症対策で各棟ごとの活動になり、余暇イベントを実施してきた。

- ・季節が感じられる小行事と土日を中心とした余暇活動の提供。
- ・入浴後の喫茶や夜のおやつ提供とお菓子作り。

- ・月に一度の「誕生日おめでとう」のケーキ。
- ・各生活棟での季節に応じた室内装飾活動。

2) 日中活動支援部門 ■療育活動■

基本方針

心身共に健やかな体作りを目指し、四季を感じながら豊かな生活を送れるようにする

① ウォーキング活動・リトミック活動

利用者個々の身体能力や、必要な配慮も多様化していく中で、個別アセスメント、モニタリングを基に、小グループ活動から段階的に各利用者の「運動量」や「ペース」に焦点を合わせた形に新たなグループ化を図り計画した。しかし、新型コロナウイルスの影響で午前中は各棟別での運動を行うこととした。そのため、個々の運動量やペースに焦点を合わせることは難しくなった。

◆ウォーキング活動

目的・方針

施設周辺や森林公園・宇ノ気運動公園などの屋外において、屋外の開放感・季節を楽しみながら、歩いた達成感を感じられるウォーキング活動に取り組む。

- ・各棟別でのウォーキング活動を行い、バスを使用する活動に関しては、各棟交代で行った。

◆リトミック活動

目的・方針

・音楽に合わせた身体活動により、楽しく身体機能の維持を図る。

- ・各棟内リトミックやステージ前を利用した外リトミック、トルでの活動を行った。

② ヨガ・ダンス活動 (コロナで中止していたが6月より再開)

目的・方針

・音楽やリズムに合わせて心身のリラックスを体験しながら、筋力や柔軟性などの身体機能に働きかけていく。

【ヨガ・ダンス (委託講師)】

活動日は、ヨガ 第2, 4木曜日 午後 2回/月、ダンス 第3木曜日 午後 1回/月

場所はトル2階体育館を使用。

- ・専門的な視点での体の動かし方、体操やダンスを体感することができている。
- ・楽しみにしている利用者も多く、リラックスできる活動となっている。

③ 芸術活動 (6月より)

目的・方針

・利用者の創作活動を通じて、自己表現の場を設け、生きがいや自信につなげる活動にする。
・職員との新しいコミュニケーション手段の発見につなげる活動にする。

【サンクス美術教室 (委託講師)】

活動日は第2, 4火曜日 午後 2回/月

場所ははぎの郷食堂を使用。

- ・毎回季節ごとのテーマをもとに下絵や音楽等を用意し、参加した利用者は自由に色をぬったり、シールを貼ったり、音楽にのりながら過ごしたりしている。
- ・楽しみにしている利用者も多く、下絵を選んで丁寧に色をぬっている様子がみられる。
- ・自由な表現活動の場となっている。

3) 日中活動支援部門 ■作業活動■

活動の目的と方針

- ・「自分の仕事」という自覚と責任感を持って自主的に取り組める活動があること
- ・活動の場面に応じて適した清潔な衣類に着替えること
- ・活動の場には必ず職員が同席し、適切な関係が保たれていること
- ・活動を通して、その文化に触れたり、人との交流が生まれていること
- ・活動により、報酬や他からの感謝、自身の健康など恩恵を受けていること

①作業活動全体の取り組みと成果

作業班メンバーの編成を見直し、細分化したことで、利用者一人ひとりに目を配ることが出来るようになった。

②各作業班の取り組みと成果、課題

作業班	作業内容	取り組みと成果	課題
織物班	①織物 結び織 機織り	・利用者各々の作業スペースと個々に応じた道具や材料を提供し、個人のペースで取り組むことができた。 *コロナの影響で6月から再開	・在庫の管理。引き続き販路を検討する。
	②染色 染材採り 染材ちぎり 染液づくり	・草木染め染色カレンダーを作成し、作業日程を調整した。	・常設されていた染色用コンロが無くなったため、今後は計画を立てて、ボンベ・コンロを注文して行う必要あり。
	④園芸	・花壇作り、土作り、苗植え除草を行った。 ・腐葉土作りのための落ち葉拾いに出かけた。	・腐葉土を作っていたマスを撤去したため、以前使用していたマスで腐葉土作りを行うこととした。土ができるまで時間がかかる。
軽作業班	①ボビン 残糸巻取り	・作業空間を利用者にわかるように机と椅子の配置を検討した。 ・自主的に判断し作業を進められる「グループA」と、支援が必要な「グループB」に大まかに分かれる事で、作業工程に目を配ることができた。 ・利用者の様子を見て作業場所や支援内容は調整していく。 ・休憩場所の配置替えをし、対面での休憩としないようにした。	・利用者への働きかけを統一できるよう、それぞれの課題を支援者が共通理解する。
	②新たな軽作業 ネジまわし 色分け課題等	・ボビンや、アルミ缶が不足しそうな時に随時、取り入れた。 ・ボビンの糸の量によって作業量が左右されないため、利用者によっては安定できる活動ともなっている。	・ボビン作業が無い時にはネジやその他の軽作業も取り入れる。 ・環境整備も積極的に取り入れる。

	②アルミ缶 アルミ缶潰し	・作業時『軍手』を着用して、アルミ缶つぶし時の安全に配慮した。	・アルミ缶置き場の衛生を維持する。
畑作業	①畑作業 畝づくり 苗の購入 苗植え 雑草とり 支柱立て 看板作り	・畑作業の作業内容・進度の理解不足。年間計画を立てることができていない。 ・収穫野菜はフライデークッキングの材料として、計画的に消化し、直接的な形で労働の恩恵を楽しんでいる。	・菊芋の漬物加工を目指す。 ・畑作業の知識と技術向上がないままである。 ・農作業機（耕運機）の使用がほぼなかった。
	②小物(装飾品)作り 毛糸のポン玉 プラ板 まつぼっくり 採集 仕分け 種とり	・雨天時、農閑期の作業として取り入れた。 ・個人目標を作ることができていない。 『ひとり1ブランド』の拡大、新商品「カラフルまつぼっくり」を制作した。	・利用者主体の作業活動にしたいが慣れないということもありつい職員が手伝ってしまう。 ・継続性がない。ヒット商品を開発したい。 ・畑班作業全体の計画カレンダーの作成。
	環境整備	・「はぎの郷」周辺の草むしり、腐葉土作りなど随時取り入れた。	

地域交流活動	・津幡高校との交流は新型コロナウイルスの影響で行わなかった。
--------	--------------------------------

令和2年度「ホームすぎな」事業報告

ホームすぎな管理者 水野 成

1. 利用者の状況

(1) 利用者の性別、年齢、市町村別状況

- ・現利用者は6名（定員7名）、全員男性、平均年齢：49.5歳
- ・金沢市(4)、かほく市(1)、白山市(1)

(2) 障害支援区分

- ・区分4(5)、区分5(1)

(3) 日中利用活動

- ・6名全員、平日の日中はジョブスタジオノームにて生産活動や受託作業等の作業に従事している。

2. 職員配置

- ・管理者(1)・・・常勤（兼務）
- ・サービス管理責任者(1)・・・常勤（兼務）
- ・生活支援員(2)・・・非常勤2（専任1、兼務1）
- ・世話人(1)・・・常勤（専任）

3. 年間延べ利用日数

令和2年度	令和元年度
2, 107日	1, 782日

※新型コロナ感染対策のため、普段は毎週自宅帰省していた方々にも自粛していただいたため、ご利用日数は大幅に増えることとなった。

4. 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・帰省をしなくなったため特に土日の配置が厳しくなり、感染要注意時期にはノームやはぎの郷の職員が応援に入ることがあった。
- ・一度感染が持ち込まれると、全館レッドゾーンになるため、県から支給のあったコロナ対策費を用い、リビングとキッチンの分離パーティションの設置と、キッチンの勝手口取り付け工事を行った。これにより、どんな事態においても食事の提供は維持できる体制が整った。
- ・居室で過ごさざるを得ない事態に対応できるよう、居室での食事も可能となるよう家具や動線を整備した。感染対策のフェーズを皆さんに示しての生活様式の切り替えには、構造化してお伝えすることにより、大きな混乱はなく、理解を頂けている様子。
- ・感染対策に必要な消耗品（消毒薬、衛生用品等）も、県の対策予算でまかなえている。

5. 課題

- (1)適切な支援体制の維持のため、早急に生活担当を出来る常勤の職員の配置が必要。近々には夜間支援体制も必要となってくる。
- (2)土日をホームで過ごすことが多くなり、行事のレパトリーを増やす必要がある。また各個人でご自分の余暇の活動に取り組める活動の支援も必要。
- (3)バックアップ施設であるはぎの郷の職員と、年々疎遠になってきており、休日等すぎなの仲間がはぎの郷に出入りしても対応できない職員が増えている。バックアップできる体制の維持は今後すぎながどのような体制を取ろうとも必要であるため、日頃の情報共有と職員の行き来が必要。
- (4)防災の備えについて、ガラスの飛散防止の対処が必要。また各居室のエアコンの傷みが目立ってきており、更新が必要な物も増えてきた。

以上



一人ひとりが、その人らしい「はたらく」を実現するために

親子・家族のきずな

社会・自然との積極的な交流 を大切にしながら、

みんなで創りあげていく

はたらく人たちのためのスタジオです。

令和2年度 ジョブスタジオ ノーム 事業報告

管理者 水野 成

1. ご利用者の推移

(1)ご利用契約者数の推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
女	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19

※令和2年度は新規の利用者も、退所される方もいませんでした。

(2)性別・年齢別 人数表(R3.3.31 現在)

年齢	10台	20～	25～	30～	35～	40～	45～	50～	55～	60～	平均年齢
		24	29	34	39	44	49	54	59		
男	0	3	3	0	1	1	5	3	1	0	39.8
女	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	25.5
計	0	4	4	0	1	1	5	3	1	0	38.3

(3)市町村別ご利用状況(R3.3.31 現在)

市町村	金沢市	白山市	内灘町	津幡町	羽咋市	かほく市	小矢部市	計
男	9	1	2	0	1	3	1	17
女	0	0	0	1	0	1	0	2
計	9	1	2	1	1	4	1	19

(4)利用者の障害支援区分(R2.3.31 現在)

	利用者数	障害支援区分判定						未判定
		1	2	3	4	5	6	
男	17			8	2	2	3	2
女	2				1	1		0
計	19			8	3	3	3	2

(5)新型コロナ感染症の影響

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ利用者数	425	295	443	432	389	401	445	384	422	358	345	376
開所日数	24	21	24	24	22	22	24	21	24	21	20	22

※4/24(金)38℃後半の熱発者あり、4/25 通所の方全員のご利用を自粛していただくよう要請。

※5月の1か月間、生活支援員1名がはぎの郷へ出向しサポートにあたる。

※5月緊急事態宣言、及び入所者・GH利用者の長期帰省からの受け入れを受け、送迎車の中止と通所者の自粛を要請。活動場所ははぎの郷・すぎな・ノームと分散して感染拡大防止厳戒態勢で支援を行った。5/25より通常通り再開。

※4月9日より公共交通機関での通所を自粛していただくよう依頼(2名)。

※金沢市からの通所者1名につき、4月10日よりリモートワークでの支給決定がなされ、メールでの

やり取り・ご家族による材料の運搬等の体制で支援を継続することができた。
 ※年間を通した平均利用者数は17.6名(昨年度18.2名)となった。

2. 職員構成と異動

R3.3.31 現在

管理者 兼 サービス管理責任者	1	常勤
目標工賃達成指導員	1	常勤
職業指導員	2	常勤
生活支援員	5 (3.06)	常勤／非常勤

※4月22日より職員1名、育児休業より復帰。

※12月2日に実施された県指導監査・実地指導において管理者・サービス管理責任者の兼務が過重であるとの指摘を受け、令和3年4月1日より改善し、改善報告書及び変更届を提出した。

3. 実施した主な行事

(1) ノーム全般（施設行事・交流）

日	内 容	会場
4/1	加賀料理 秋月様より特製弁当寄贈	ノーム
8/3	防災炊き出し訓練	トロール
9/15	マジシャンルパンのオンラインマジックショー	ノーム
10/22	キンモクセイハイキング（春のハイキング順延）	倶利伽羅公園
11/19	紅葉ドライブ／ロジ夢眠手入れ	ロジ夢眠
12/2	石川県 障害福祉サービス事業者等実地指導	トロール
2/12	みそ作り体験教室	トロール
3/25	防災炊き出し訓練	トロール前テント

(2) 就労支援関連

8/5～	津幡町役場 農林振興課 あんずクッキー協議	ノーム
10/23	P F U / P r o D e S 様 お届け販売会	本社/ProDeS 売店
12/23	F J I T 労働組合とのクリスマス販売会 今年度は対面販売中止、製品の予約販売のみ	F J I T 売店
●津幡町役場、ユニバール(株)のご協力にて季節の企画（母の日、父の日、ハロウィン、クリスマス、バレンタイン、ホワイトデー）においてチラシ回覧による注文販売を実施（継続）		

(3) 生活・余暇支援関連

4/3	お花見ランチ	トロール駐車場
7/30	歯科検診	はぎの郷
8/14	夏の縁日	ノーム
8/31	たこ焼きパーティー（はぎの郷と合同）	トロール
9/11	健康診断	はぎの郷
9/15	ノーム科学ショー	ノーム
10/28	インフルエンザ予防接種（昨年より1か月早やめ）	はぎの郷
12/25	クリスマス・リトミックフェスティバル2020	トロール
1/15	新年を祝う会	トロール
2/2	節分の集い in トロール	トロール
3/19	美術教室	ノーム

※1/8～大雪のため送迎や活動に支障がでた。

※恒例となっている行事について、感染対策の観点から再検討を行い、中止や変更を行った。

4. 職員研修及び福利厚生

日 付	分類	内 容	備考
9/16	研修	田熊 立氏講演会 於：県地場産業センター	パース研修 運営手伝い

9/29	講習	食品衛生責任者研修	シグナスにて
9～10月	厚生	職員健康診断	
12/12～12/14	研修	自閉症カンファレンス 2020	リモートにて
1/18、1/19	研修	強度行動障害支援者養成研修(基礎)	講師として
3/4、3/5	研修	強度行動障害支援者養成研修(実践)	講師として

5. 受諾研修・実習・ボランティア・見学等

(ア) 受諾研修及び実習 今年度受け入れ無し

職場実習（施設体験）新型コロナ感染症対策のため、実習はお断りした。

受入日(期間)	分類	所属	人数	延べ日数
なし				

(イ) ボランティア

来郷者	内容	備考
NPO 法人 ケーネット知楽市	インターネットカフェ	主に第1・3水曜日
	パソコン再生	随時
PFU 労働組合	PC 再生	随時
石川工業高等専門学校	PC 再生	随時
津幡高校園芸部	作業関連の交流活動	随時

(ウ) 職員の委嘱業務・地域貢献等

津幡町共同募金会 審査委員	津幡町共同募金会
強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）企画委員	石川県
津幡町障害支援区分 審査委員	津幡町
障害のある方のアート活動支援研究会 企画委員	石川県
自閉症啓発デー 関連行事	石川県自閉症協会

(エ) 見学者ご来訪

月日	見学者	備考	人数
9/18	就職希望者 2 名	見学および面談	2
9/23	福祉施設見学	福サポフェアより	1
10/14	知的障害者福祉協会機関誌取材	サポート編集委員	1

6. 設備・修繕

(1) 防犯等カメラの設置

不審者の侵入や、職員の目の届かない所での事故に対し、未然に防ぐ、または検証を行うため、9月4日(金)、館内外に8台のカメラを設置し、事務所で一元管理できるようにした。

(2) 樹木の伐採（撤去）

ノームの正面の山の斜面（本館よりノームへ降りる階段の上）の樹木が高くなり、そのうち巨木3本がノーム側へ倒れてきており、かろうじて手前の木に引っ掛かっている状態だったので、山の所有者に了解を取り、9月13日伐採した。

7. 助成、寄贈

- ・4月01日 「加賀料理 秋月」様よりなかま・職員全員へ特製弁当の寄贈
- ・4月11日 元金大附属特別支援学校教諭よりクラシック音楽 CD 全集の寄贈
- ・4月～7月 多くの方々より、感染症対策物資の寄贈あり
- ・9月11日 大塚商会様より「たのくんからの贈り物」事務用品や衛生用品の寄贈

8. 今年度の取り組みの振り返りと工賃支給実績

(1) 支援全般について

令和2年度は新型コロナ感染症の蔓延により、なかまの皆さんの生活様式は激変し、特に環境の変化が苦手な方々にとっては非常にストレスの多い1年となってしまった。人と人の接触を避けねばならない、という状況も足枷となり、計画に上げた事業の内、全く取り掛かることの出来なかったことも多くなってしまった。

【今年度の取り組み】

●工賃向上や社会参加につながる各種イベントへの出店・販路の拡大

令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対応により、殆どのイベントが中止となり、販売の機会が減少したことにより、主に洋菓子の売り上げが激減することになってしまった。そうした中で、通販の試みや、役場・企業等でのカタログ販売等を、工夫しながら行った他、PFU 本社・ProDeS センターの売店の方が季節品の販売を担って下さったり、富士通 IT プロダクツ労働組合の方がクリスマスセットの注文取りまとめを担って下さったりと、温かな支援に支えられることも多かった。

今後もコロナ禍が続く予測の中で、販売方法・販路の工夫により打開を図っていく必要がある。

●感染症への対策と仲間への生活支援

はぎの郷開所以来、すぎな・はぎの郷で生活する多くのなかまの皆さんにとって定期的に帰省するということは当たり前のことであったが、8ヶ月以上の長期にわたり自宅に帰らず生活するということのストレスは大変なものであったろうと思われる。そんな中でも日々のテレビや新聞でもたらされるニュースを正しく捉え、マスク着用や手指の消毒、日々の検温などの新たな生活様式を身につけて行かれたことを、私たち「支援者」は深い尊敬の念をもって記憶にとどめ、日々の支援に当たらねばならないと感じた。

その上で、正しいコロナへの警戒の仕方と、エビデンスに基づいた感染予防行動を、ノームでの毎日の生活の場面（朝の会、活動前後、食事時、更衣、送迎車内、等）において、伝え方に工夫しながら、繰り返し、一つひとつ定着を図ってきた。

(2) 【就労支援事業収入と工賃支給】

	R2年度	R1年度	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
① 就労支援事業収入	4,976,145	5,405,745	5,827,023	5,353,169	5,368,430	5,396,179	5,351,519
② 工賃支払総額	2,478,634	3,032,377	3,213,023	2,916,025	3,152,555	3,090,500	3,019,678
③ 平均工賃月額	10,871	12,959	13,192	12,356	14,801	13,921	15,727

9. 自閉症啓発への取り組み

◎石川県自閉症協会より、令和2年4月2日の「世界自閉症啓発デー」でのイベント及び以後4月8日までの「発達障害啓発週間」に向けた協力依頼を受けたが、新型コロナウイルス感染拡大の中、当日のみならず打ち合わせ等に職員を派遣することは危険を伴い、実際に金沢市の児童館にポスター掲示の依頼に行っていた職員が、後に感染が判明した児童と同席してしまい、同職員に2週間の自宅待機をさせる事態となった。

全国的な緊急事態宣言発出(4/16)へと事態が悪化する状況で、集合イベントや展示イベントはすべて中止となり、Youtube や zoom というオンラインを活用しながらの啓発となった。

1. 石川門ブルーライトアップ（ブルーライト・ウォークは中止）

2018年4月2日（月）【国連が定めた世界自閉症啓発デー】

※石川門を動画撮影し、Youtube・Facebookにて配信。山野金沢市長やPFUブルーキャッツの皆様からメッセージが寄せられ、閲覧される方が増えた。

2. 自閉症・発達障害の方の作品展「わたしの好きなこと」

※金沢市庁舎交流ホール・石川県庁 19階展望ロビーでの作品展は中止。作品の写真を募集し自閉症協会のHPやFacebookに掲載した。

3. 金沢市児童館へのポスター掲示依頼

4. 当事者が語る『本人の声 自閉症・発達障害』zoom講演会開催（4/29）

◎強度行動障害とされる状況へ至った自閉症者への適切な支援方法を伝え、同時に福祉施設内での虐待防止に繋げようとの趣旨で、平成26年度より県内の全ての障害福祉事業所の職員を対象とした「強度行動障害支援者養成研修（基礎2日間）（実践3日間）」（主催：石川県）が開催され、受講者に対し報酬上の評価が与えられるような制度が整ってきた。この研修には企画委員として職員2名が参画しており、より良い内容の研修を提供することにより、自閉症者に対する正しい理解と適切な支援が広がってゆくことを目指している。コロナ禍にあり、グループ演習も含んだ研修開催は困難もあったが、オンライン講義と、感染対策を施した集合研修を組み合わせ、1月に基礎研2日間、3月に実践研2日間、開催することができた。

以上

発達障害者支援センターパース 令和2年度事業報告

センター長 瀬戸 美津子

1. センターの状況

(1) 職員配置

6名(内、常勤4名、非常勤2名)

(2) 実施場所

金沢市福久東1-56 オフィスオーセド2階建ての2階の2室を賃借

(3) 委託料

前年度と同額

2. センター事業の実施状況(表1)

事業内容			実績 (昨年比)
(1) 発達障害児者及びその家族に対する相談支援・発達支援	来所、訪問、電話、Eメール 原則、日曜・年末年始を除く 9:00~17:30 Eメールは24時間受付、緊急時は携帯電話等で時間外にも対応	実支援人数	718人 (163↗)
		延支援件数	2045件 (423↗)
	心理学的判定		6人
	情報共有等(調整会議)		32件
	関係機関職員への助言(機関コンサルテーション)		2803件
(2) 発達障害児者に対する就労支援	来所、訪問、電話、Eメール 原則、日曜・年末年始を除く 9:00~17:30 Eメールは24時間受付	実支援人数	235人 (67↗)
		延支援件数	2479件 (599↗)
	情報共有等(調整会議)		172件
	関係機関職員への助言(機関コンサルテーション)		770件
(3) 地域住民等に対する普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 世界自閉症啓発デーについての広報活動 ペアレントメンターについての周知・理解 NPO法人への発達障害者支援に関する助言、説明会 ピアサポーターへの説明会 		35回
(4) 関係施設・関係機関等に対する普及啓発及び研修	センター主催または共催で企画した研修 ・石川県地場産業振興センター テーマ：発達障害講座 講師：市川宏伸 ・石川県地場産業振興センター テーマ：発達障がい者支援にかかわる人のための家族支援とその手法 講師：田熊 立(千葉県発達障害者支援センター) 他	実施回数	50回 (8↗)
		延参加人数	367人 (494↗)
	外部から講師依頼を受けた研修(講師派遣)	実施回数	41回(10↗)
		延参加人数	371人 (217↗)
	教育関係者との合同研修会	実施回数	14回(6↗)
		延参加人数	45人(54↗)
(5) 関係施設・関係機関等の連携	連絡協議会の開催状況 ・世界自閉症啓発デーin石川企画委員会 他		29回(14↗)
	障害者総合福祉法第89条の協議会等への参加状況 ・地域障害者自立支援協議会(津幡町・かほく市・白山市) ・市町発達障害者担当課長会議 ・石川県発達障害者支援体制推進会議等および石川県特別支援教育体制整備推進事業連絡協議会		4回 (3↗)

	その他の協議会への参加状況 ・強度行動障害支援者養成研修企画委員会	16回 (23回)
--	--------------------------------------	--------------

3. 事業の実施内容（表2）

<p>(1) 発達障害児者及びその家族に対する相談支援・発達支援 当事者・家族や関係機関からのニーズに対し、来所・訪問・電話・テレビ会議システム・Eメールなどの方法で相談を実施した。必要に応じて心理検査等のアセスメントや支援計画の作成を実施した。関係機関のコンサルテーションを実施した。 主な関係機関…保育所、放課後児童クラブ、小・中・高校、特別支援学校、大学、児童相談所、障害福祉サービス事業所、相談支援事業所、医療機関、保健所、行政機関 など</p> <p>(2) 発達障害児者に対する就労支援 当事者・家族や関係機関からの就労に関する相談に対し、来所・訪問・電話・テレビ会議システム・Eメールなどの方法で実施した。県青年期社会適応力向上事業としてNPO法人ケーネット知楽市と協働でのITサロン(別添資料あり)や安宅数楽塾と協同でのボードゲーム(能登地区および加賀地区)の開催に協力した。他、就労関係機関のコンサルテーションを実施した。 主な関係機関…医療機関、相談支援事業所、就労移行支援事業所、就労継続支援事業所、公共職業安定所、企業、司法関係機関、行政機関 など</p> <p>(3) 地域住民等に対する普及啓発 世界自閉症啓発デーin石川に関する企画・運営を、石川県自閉症協会やその他の関係者ととも実施した。(4月2日は新型コロナ感染予防のため、ライトアップに関する動画を生配信した)</p> <p>(4) 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修 ペアレントトレーニング指導者等養成研修の2コマを公開講座として、テレビ会議システムを用いて、9月16日と10月5日に地場産業振興センターにて、関係施設及び関係機関職員らを対象に実施した。 ホームページ及びブログの更新を随時実施した。</p> <p>(5) 関係施設及び関係機関等の連携 発達障害者支援に関する様々な会議の企画・運営に協力、参加した。県及び市町の障害者自立支援協議会及び運営会議に参加した。</p>

4. 家族の集い事業

(1) ペアレントメンター

能登方面の受講希望者を主体としたペアレントメンター養成講座フォローアップコースを実施した。インストラクターは金沢大学の教授1名、准教授1名、その他石川県内で活動している臨床心理士や相談支援専門員らに依頼し、質の高い研修を実施することができた。

石川県自閉症協会げんきの会をはじめとする親の会主催の相談会、パースでの個別相談、テレビ会議システムを用いてのメンター交流会、活動報告会、などに関してペアレントメンター派遣をコーディネートした。

(2) ペアレントトレーニング指導者等養成研修

子どもの発達・発育の偏りによる親の育児不安に関して、身近な地域で専門家の指導を受けられる環境整備の一環。児童発達支援センター、放課後等児童デイサービスの職員20名を対象とし、子どもへの関わり方について親・養育者等を指導できる人材育成を目的とし、テレビ会議システムを用いた基礎講座を3回、フォローアップ研修を1回、計4回実施した。

5. 発達障害者地域支援マネジャー事業

県内各市町の発達障害児者の相談体制作りや困難事例への支援ができるよう、要請に応じて7市4町に延べ49回出向いた。